

教えて!

市立病院

〈第 101 回〉

難聴は最大の認知症危険因子

■問合せ／市立病院総務課企画財務担当 ☎ 22-2450



【今月のドクター】

耳鼻咽喉科長
くぼたとしのり
窪田俊憲 医師
補聴器相談医

厚生労働省によると、2025年には約700万人、65歳以上の高齢者の5人に1人が認知症になると推計されています。2017年、国際アルツハイマー病会議において、ランセット国際委員会が「認知症の約35%は潜在的に修正可能な9つの危険因子に起因する」と発表しました。予防できる危険

因子として「高血圧」「肥満」「喫煙」などが挙げられますが、「難聴」が最大の危険因子とされました。難聴に適切に対処することで、積極的に認知症を予防できる可能性があると考えられます。

鼓膜穿孔^{せんこう}など手術加療で改善できる難聴もありますが、聴力の低下を感じたら補聴器をつけるなど適切に対応し、脳を活性化させ、さらに家族や友人とのコミュニケーションを楽しむことが認知症の予防に重要です。日本人は補聴器をつけることに抵抗を感じる方が多く、日本補聴器工業会の調査によると、難聴者の補聴器装用率はデンマーク47.3%、

イギリス42.4%、アメリカ30.2%などに対して日本13.5%でした。

日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会では、「補聴器相談医」を認定してホームページに相談医の名簿を公開しています。補聴器相談医は、難聴者が適正な価格で適切に補聴器を装用できるように診療と相談を行います。難聴の程度によっては、補聴器購入の際に障害者総合支援法などによる助成を受けられることもあります。聞こえにくさを感じたら、まず補聴器相談医にご相談ください。

(一社) 日本補聴器
販売店協会

